

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第19回『「癌細胞の病理」と「人間社会の病理」

～『がん哲学・外来』の原点～』

私は、若き日から、宇宙における、「ヒトの健康長寿」について興味があった。特に、宇宙では、「発がん、癌化は、促進されるのか、抑制されるのか」である。

「種と畑 ～ 地上と宇宙での がん細胞 ～」。つまり、「がん細胞の環境」の研究である。それが『「癌細胞の病理」と「人間社会の病理」』（次ページ）に繋がり、『がん哲学・外来』の 原点となったのである。

私の夢は、バーチャルな「国際宇宙環境発がん制御研究センター」設立と「宇宙がん病院ヤマト」の創設である。これが、人類の進む方向でなかろうか！「新渡戸稲造 国際連盟事務次長就任 100 周年記念」の今年の世界宣言でもなかろうか！「冗談を本気で実現する胆力」の「試金石」でもあろう！まさに、「新渡戸稲造記念センター in 新渡戸記念中野総合病院」の歴史的存在意義である。

「最初の人、アダムの罪の性質が、彼のすべての子孫に及んだのです」（ローマ 5:12) の法則は、医学生時代「内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄」の読書から、学んだものである。そして 私は、アメリカから帰国し、癌研時代に、1992 年連載『内なる敵 ～ いかにして癌は起こるのか ～』（いのちのことば）の機会が与えられた（次ページ）。それが、今秋『聖書とがん ～「内なる敵」と「内なる人」～』が、発行される運びとなった。人生不思議な流れである。

